

---

# 空の刀が目指すは雷の神 外伝 正義の殺戮者

靈宮空刀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空の刀が目指すは雷の神 外伝 正義の殺戮者

### 【NZコード】

N1725X

### 【作者名】

靈宮空刀

### 【あらすじ】

FAIRY TAIL 空の刀が目指すは雷の神で聖夜が気まぐれにおとしたガイアメモリ。その使い手は一体、何を見て、何を糧に生きるのか

データ1 物・語・開・始（前書き）

タイトル変更

## データ1 物・語・開・始

s i d e ??

はあ・・・はあ・・・はあ・・・なんなんだよ・・・あの変な奴は！？変なメモリを体に刺したと思えば変な仮面かぶつて！？逃げなきやな・・・真正面からやりあつたら数で押されて俺の負けだ・・・でもこのままいけば行き止まり・・・どうすればいいんだよ！？

s i d e out

s i d e 第三者

この事の起こりは1時間前にさかのぼる

彼は学校の放課後、とある廃工場に忍び込んでいた。理由は簡単だ。家に帰りたくないからである。彼の家は親が墮落した生活を送り、彼が汗水たらしてバイトをした金で遊び暮らしていた。だから彼は友達の家を泊まり歩くようになった。そのたび親は反省したふりをして、働くことを強要している。だからだ

s i d e ??

「さてと・・・玲人とかは親も事情分かっているから泊まりやすいんだけど・・・迷惑かけたくないしな・・・今日はここで寝るかな」

玲人とは神山玲人のことである。俺の親友で、弟の神山零時とも兄弟のように仲が言い。しかし、3日連続はさすがに駄目だと思い、ここに泊まろうと思つた。

「それにしても・・・変な物音するなあ？」

ギシイ・・・ギシイ・・・と軋むような音がしている。俺はその音源を探ることにした。そして、その音源を探り当てたのだが・・・

(カラー・ギャングの集会か?それにしては全員スースだな?)

俺はそれをじっと眺めていると、とある音声がなる。

『『『『『マスカレイド!-----』』』』

(ー?なんだあればー?)

俺はその場から離れようとしたが、急いだのが不幸で、物音を立ててしまった

「マズ!急がねえとー!」

ここから俺とあいつらの鬼!」が始まつたんだ  
話を戻す

「ちくしょー!もう行き止まり···」

俺は心なしか不安な声を出す。駄目だ駄目だ!!諦めたら試合終了だ!!その瞬間、頭に何かが落ちる。

「痛つ!..なんだよこれ···」

俺は変な形をしたものと、USBメモリみたいなものがあった。血のよう赤く、「G」と書かれていた。あとは手紙が一枚。俺はその手紙を読んでみることにした。時間がないが、読まなくてはいけない気がした

『これを見ている奴、俺は空刀聖夜だ。この手紙を手にしたときにロストドライバーとガイアメモリの使い方を頭に流し込んでおく。最後に、正しいことに使え。以上』

読み終わると使い方が頭に浮かびこみ、手紙は灰になつた。そして、

USBメモリ、ガイアメモリと変な形の機械、ロストドライバーを手に取る。

「なるほどな・・・・・・」

俺の目の前には変な集団が迫ってきた。いつちよやつてやりますか！…命がけだしな

『GENOCIDE!!』

掛け声はこいつしかない。俺が尊敬するヒーローの…！

「変身！！！」

俺はロストドライバーのメモリを入れるまつこジエノサイドのメモリをいれ、右側に倒す。

『GENOCIDE!!』

そして俺の体は血のよつた装甲に包まれ、そこに立っていたのは

「俺の名は・・・仮面ライダージュノサイド。さあ・・殺戮タイムだ」

俺はそういうと集団の中へと入り、手当たりしだいパンチとキックを決める。あいつらは意外と弱いのか、すぐに全員を倒し終わってしまった。

「正義・・・か・・・」

とつあえず俺は荷物を取りに廃工場へと戻った

## 主人公のデータ（前書き）

主人公のデータです

## 主人公のデータ

名前：慈円 炎忌 じえん えんき

年齢：16歳

学年：高校一年生

容姿：灼眼のシャナの佐藤啓作の髪の毛、瞳を赤色にした感じ。意外と女子の間では人気。リア充ではない

持っているメモリ：ジエノサイド 殺戮の記憶

性格：親友や信頼できそうな人以外は信用しない。親のせいで人間不信気味

魔力：SSSランク なのは並み

デバイス：テンペスタ

デバイスを手に入れた経緯：たまたま神山玲人からもらつた。零時の友達の親が作り上げたものらしい。

魔力が多いわけ：生まれつき

紹介：高校一年生で、とある廃工場でジエノサイドのメモリとロストドライバーを手に入れたときから物語は動き出した。親が堕落しているため、あまり人、特に大人を信用しない。動物で好きなのは狼。なぜならかっこいいから。信用できるのは神山家の人々だと公言している。一部ではB級とか言われている。しているバイトは神山父の運送会社の下働き。トラックは運転しないが力が強いので重いものを持ち運べる。だから重宝される。眞面目に働いているから給料も2割増し。

管理局との関係：特になし

機動六課と会う確率：本編はもう始まっているのでかかわらないと思う。世界観を使用しているだけなので

名前の由来：慈円、じえ、じえ、ジエノサイドというわけです。こじつけに近いかな？

炎忌 赤色 炎、忌 忌み嫌われるという為

以上です

慈円「人気出るかな」

靈宮「出ない」

慈円「言うなそれを。つーか管理局には出くわしたくない。お前原作知つてんのか」

靈宮「知らん」

慈円「駄目だ」りや」

靈宮「他の人の二次創作を読んで補完します」

慈円「次回もよろしく」

## データ2 殺・戮・青・年（前書き）

フォーゼタイトルみたいですね。ついでに主人公狂キャラかも・・・  
グロ描写あり、苦手な人はG o t o b a c k

# デ・タ2 殺・戮・青・年

s i d e 炎忌

俺は廃工場につき、荷物を回収した後で駅に一旦よつてロッカーに荷物を預けておいた。今は廃工場にまたいる。

「それにしても……ジエノサイドか。殺戮者の記憶……か……」

殺戮とは・・・意味はよく分からんが複数の人間を一方的に殺すことらしい。一人が複数の人間を殺す・・・この力とデバイスさえあれば・・・ステコロセルジヤナイ力

「ハハハハハツ！！！！ハハハハハツ！！！！アツハツハ！！！殺してやるよ、スベテ、スベテナアアアアアアアア！！！！！」

手始めにあいつらだ・・・俺が苦労をすることになつたあいつらを殺してやる・・・・ああユカイダナアア――――――

炎忌宅

俺は自分のデバイス『テンペスタ』を開拓している。そして家のドアを合鍵で、静かに中へ入る。そしてリビングへ行くと、酒を飲んでいる親を見つけた。親は俺を見つけると

「玉つなれども……」

もう麻薬とか覚せい剤やつてんじゃないのかつていうくらい金に執着していた。救いようがねえ。殺してやるのが幸せみたいなもんだ。

俺はデバイスの手甲をナイフにすると、父親のほうに一瞬で近づいて心臓を串刺しにする。

「がふあ」

そう言つと口から血を吐いた。ナイフをさしたところからも血が流れ出した。さらにナイフを炎が伝わせ、血を床に垂らす前に血すら燃やしつくす。あとは灰だけが残つた。

「次はお前だ」

そして言葉を言う前に母親の口の中にナイフを突き刺す。さらに炎を体内に流し込み燃やしつくす。汚物の処理はこれで完了だ。あとは灰をどりするかだが・・・

「埋めておひづ」

俺は庭に灰を埋めておいた。人体を燃やせば灰になるほか骨が残るはずだが、その骨をたたき尽くせば灰になる。これが仕掛けと言うわけだ。そしてすべて灰にして埋め終わると、俺は部屋の掃除を始めた

（少年掃除中）

「終わった。これで家に住める

俺は家に住むためだけに親を殺したのかもしれない。だけど、後悔はしていない。自堕落な親だから死んでもかまわないはず。ヒーローだあ？道徳だ？んなもんいらねえんだよ！――！

「荷物取りに行くか

その前にデバイスを待機状態にしよう。

「少年移動中」

俺は荷物を取るとすぐさま家に帰り、再び自分の部屋に荷物を置いた。何ヶ月振りだらうか分からなくなるが、自分の部屋はいい。次に冷蔵庫の確認だが驚くほどに酒しかない。酒のほうは神山家にお中元みたいにあげるとして、食材とかをどうするかだな・・・明日買えばいいか。高校ないし。俺はこれから日々に期待をはせながら眠りについた

side out

side 聖夜

「なーなー蛇川。おもしろござい」

「なんだよ」

俺は蛇川にそう声をかけると、慈円炎忌が親を殺しているところを見せた。案の定蛇川はばつの悪そうな顔をした

「まさかとは思うが・・・」

「ああ・・・ジエノサイドの使い手に恥じない奴だぜ」

「こいつをしばらぐ観察しているか

side out

side 第二者

「ふあーあ、もういつの時か」

「炎忌は朝、気持ちのいい日覚めをすると服を着替えて歯を磨き、食材を買いに行つた  
～スーパーマーケット～

「特売やすいな」

炎忌は特売で食材を大量に買い込むと、幸せな顔で帰路についていた。誰から見ても幸せな顔である。そして炎忌は家に着くと食材を冷蔵庫にしまってから外へ出た。鍵はきちんと閉めたらしい。そしてどこからか悲鳴が聞こえる

「キヤアアアア！……！」

「何なんだ！？」

炎忌がそこへ急ぐと、マスカレイド集団（仮）と中心に変な怪物がいた

「へえ……厄介事に巻き込まれるもんだねえ。厄介な人間を消した後は……」

『GENOCIDE』

「変身……！」

『GENOCIDE』

炎忌は仮面ライダージュノサイドに変身していきなりベルトの左側を押した

『GENOCIDE MAGNUM』

「まつたくもつ・・・・・敵が多いと集中できない」

炎忌がマスカレイド集団（仮）+怪人に銃撃を浴びせかける。マスカレイドのほうは全員やられるが、怪人のほうはタフで倒れない。

「なら真正面からだぜ」

『GENOCIDE SHAF』

炎忌がジョンノサイド・シャフトで怪人のほうに打撃を加えるが、それを怪人のほうは腕でガードして炎忌にパンチとキックの連打を浴びせかける

「がはあ！」

負けじと炎忌もシャフトで打撃を加えるが、怪人のほうはき攻撃が効いていないようで、ものともせずに炎忌に打撃を連続で決める

「つちーーー！一点突破するしかなによつだな」

炎忌はベルトのマキシマムスロットにロストドライバーから引き抜いたジョンノサイドのメモリを入れ、軽くたたく

『GENOCIDE!! MAXIMUM DRIVE!!』

「ライダーアアパアアンチイイーーー！」

炎忌は怪人の腹にマキシマムドライブを叩き込んだ。そして、

「グギィアアア……」

多分だが人間には発音できない言葉を発して消滅した。そして炎忌は変身を解く。

「なんなんだよ・・・ん?」

炎忌が地面からCBメモリのようなものを拾つた。どうやらソと書かれているようだが、炎忌が触つたとたんに砕け散つた

「なんなんだよ」

side out

## データ2 殺・戮・青・年（後書き）

デバイス名：テンペスタ

バリアジャケット：赤色の短パンに赤色のノースリーブ、その上に  
WのNEVERのジャケットをはおつている。

炎忌の魔力光：赤色

出たドーパント：バイレオンスドーパント

side炎忌

「……という結果だ。玲人」

「ああ……お前もずいぶんな事しちまつたな。親を殺しちまつたからな」

玲人に昨日、一昨日のことを話すと、深刻そうな顔をしていた。別に証拠隠滅もしつかりしたからいいのだが。問題は管理局だ。魔力を感知して……ということだな

「後は、ガイアメモリだな……そのロストドライバーとジェノサイドメモリを解析させてくれなイカ?」

「問答無用却下」

酷だが仕方ない。なんせ玲人の手にかかれれば人気番組のDVD録画を頼んだら国家機密をDVDに入れやがった。パソコンの修理を頼んだら自動ハツキングプログラムとかをつけた。拳句の果てには……

・・もう言えない、流石に

「なんだよ人の事をマッドサイエンティストみるよつ眼で」

「お前はそのまんまだろう」

ちなみに俺たちは授業をさぼって屋上に居る。玲人にかかれば勉強を教えてテスト1位なんて夢ではない、幻想でもないのである。ナハハハハハ

「と、まあこれくらいにして……。管理局の動向は？」

「おk、機動六課のメンバーが分かつたぜ。総部隊長に八神はやて、スターズ分隊とやらの隊長に高町な

のは、ライトニング分隊にフェイト・T・ハラオウン、スターズにスバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、ライトニング分隊にエリオ・モンディアル、キャロ・ル・ルシエ、さらにシグナム、シャマル、ヴィータ、ザフィーラなる奴らもいるらしい」

「おお……こりやすごいお人たちで」

まったく……動きにくくなるなあ。おもに仮面ライダーとして。協力者になるほかないじやん。捕まつたら、の話だけな

「んでさ、バイク頼むわ」

「バイク？ああ、免許取ったんだっけ。非公式で」

俺の免許証にはミッド語で特別認定と書かれている。これを見せればほとんどおkてこと。これも玲人だけどね。持つ者はいい友達だね

「分かった。んで管理局対策は？」

「ステルス」

「やつぱりか

俺は玲人にそう言つと、屋上の階段から下に降りて、学校の裏口から逃げる。そして自分の家に帰り、ロストドライバーを調べ始めた

「なんだううな・・・電池つぱいものもないし・・・未知のエネルギー源でも使つてゐるのか？」

俺はそう思いながらロストドライバーを腰につけ、メモリを入れな  
いま傾けてみると、何も起こらない。そりやそりやしちゃうね

（

「もしもし」

『おーい、お前の言つ怪人のよつた反応があつたぞ。あとバイクが  
完成したから』

「速いな」

『質量高速構築装置。データをこれに入れれば3秒で出来る。お前の  
のつけの前に自動走行させておくか』

『ひ

そつ言つて電話を切りやがつた。俺は自分の家の玄関につくと、そ  
こには赤く塗られたバイクがあつた。俺はそれにまたがると、目的  
の場所まで急ぐ。それにしても早いな。俺は顔が知られるとやばい  
ので走りながら変身することにした

『GENOCIDE-!-』

「変身」

俺は仮面ライダージュノサイドに変身し、目的地に着き、ドーパン

トにバイクアタックをかます

「あっちゃんぶりけ！……」

え！？

「ああもつるをこひるをこ……！」

俺はバイクを止めてドーパントに蹴りを入れ、パンチをくらわせる。バイクアタックのダメージが残っているらしく、反撃をしてこない。

「せっせと決めるぜ」

『GENOCIDE!! MAXIMUM DRIVE!!』

「ライダーパンチ」

俺はマキシマムをせっせと決めると、変身を解いてバイクに乗り、帰宅した

side out

## データ4 欲・望・降・臨（前書き）

タイトルの通り

## データ4 欲・望・降・臨

side炎忌

「クソツ！！数が多くすぎるぜ」

俺はただいま絶賛戦闘中だ。マスカレイド軍団が多すぎるんだぜ！それにしても玲人はまだかよ！！あいつが欲望王の鎧を見つけたとかで玲人の援軍を待っているのだが。まったくもつて玲人は肝心な時だけ遅い。

「まったくもう！！」

それにしても玲人は・・・・ん？なんだ、このバイクの音？

「やつほおおおお！！！欲望王の降臨だぜええ！！」

玲人きやがつた！！！おいしいところだけを持つていく奴だからな。腰に巻かれているのは変なベルトにその中に赤、黄色、緑のメダルが入つていて、それをスキヤナーで読みこんだ。え、あの語句叫んじやうのおおお！！！！

「変身！！！」

『タカ！トラ！バッタ！、タ・ト・バ！タトバ、タ・ト・バ！』

玲人はそう言ってスキヤナーでメダルを読み込む。そして玲人の体を何かが包み込み、頭はタカのような頭、胴はトラのないように腕に爪

がついている。そして足にはバッタのようなレッグになっている。そして体の中心には上がタカ、中心がトラ、下がバッタの戦士

「仮面ライダー オーズ。よろしく」

「五月蠅いぞ、やつせとやれ」

そして俺と玲人は駆け出す

Sicut

S i d e レレの玲人

作者 紗 す で  
Side Ling

これでよろし

これでよろしい。俺と炎忌はマスカレイド軍団に走り、トランクローを展開する。そしてそのうち一体を切り裂き、タ力のメダルを引き抜き、タ力のメダルを青色の、シャチメダルに変える。さらにトランクローのメダルもゴリラのメダルに変える。これは頭部系コアメダルをタ力に集約してみた。胴系コアメダルもトランクローに、レッグ系はバッタに集約した。やろうとしたら出来た

『シャチ！！ゴリラ！！バッタ！！』

これは仮面ライダー オーズ、亞種のシャゴリバだ。俺はシャチの頭から水流を放ち、マスカレイド軍団を後退させ、さらにゴリバゴー<sup>1</sup>ンを構える

## 「ロケットパンチ」

○のパクリじやねえかよ！！」

炎忌が突っ込んだ。飛んだゴリバゴーンはマスカレイドに当たり、通産10体くらいだ。さらに俺は頭と胴のメダルを緑色に変える。これはコンボというらしく

『クワガタ！！カマキリ！！バッタ！！ガタガタガタキリバ！！ガタキリバ！！』

## 「何だよその歌」

「歌は気にしないでくれ」

俺はそういうとガタキリバの特殊能力、分身をし50体に増えた。  
そしてそのままもう一回メダルを読み込む。

# 『スキャーリングチャージ!!』

そしてマスカレイド軍団を眼前に50人のガタキリバが一斉にジャンプした

# 『GENZOUTIDE!! MAXIMUM DRIVE!!』

## 「ライダージャンプ！」

炎忌もガタキリバ軍団の中に混じった。そして、全員がマスカレイド軍団に向かいキックしながら急降下した

そして全員一斉にマスカレイドにキックを放つと、マスカレイド軍

団は全滅した。

卷之二

50人のガタキリバの叫びに耳をふさぐ炎忌だつたぜ  
side out

## データ5 微・弱・電・波（前書き）

サブタイの意味はあまりなし  
ちなみにOPは「裏切りの夕焼け」  
EDは狂愛 kyoai

## データ5 微・弱・電・波

side炎忌

「変な電波あ？あんだけそれ

「まあ、落ち着けってさ。飯は逃げないし」

俺は飯をかつこみながら玲人の話を聞いている。なんでも愛用のパソコン、ウルスピで電波検索をしていたところで見つかったらしい。しかもそこは有名な幽霊スポット、これは変だということで調べに行くことになった。零時も行くらしい。

「お前そういうえば・・・」

「零時にライダーシステム作った

「・・・何でもありだな」

「株価下がらせまくった

「なにやつとるううう！――！」

「いいつ・・・アホを超えている。  
つーわけで調査日だ」

「僕が神山零時です！！」

「我が弟よ何を言つてゐる」

「何言つてんだよ零時」

いきなり自己紹介を始めた零時に流石に突つ込みをする玲人。こいつら、駄目だな

「いや、何となくやらなきゃいけないような気がして。んで、兄さんに炎忌さん。こんなところに電波の発信源があるんですか？」

零時が玲人に聞くと、玲人はパソコンを取り出す

「ここに発生源だ。管理局かもしけないから気をつけろよ零時。俺たちは・・このバカどもを一人残らずバラす」

俺たちの目の前にはいつのまにか管理局員達がいた。うん、イライラするんだよねこうこうのや

「さてと・・・零時だけさきにこつてろ」

「分かりました！お氣をつけて」

零時はそういうと走り出した。さて俺たちも・・・

「ありますか」

「ああ」

side out

side 零時

「たぐもつ・・・・・兄さんたちがやつてゐる間に僕も見つけ・・・・・  
あつた」

あつけなく見つかったなど思いながら、その発生源まで近づくとそこには

「ロストロギアか。でも・・・・なんか怨念っぽいのにじみ出て・・・・・  
」

あ、すゞーい、骸骨集団と鳥っぽい怪物がいる。だけどそれを回収しないとね。僕はカードデッキを目の前に突き出す。そうすると腰にベルト、「バッフル」が装着される。

「変身」

僕はそこにカードデッキを入れ、仮面ライダーリュウガに変身する。そしてカードデッキから一枚のカードを引き抜き、それを左腕に装着されている、ブラックドラグバイザーにカードを装填する

『ADVENT』

そしてドラグブラックを呼び出して骸骨集団を一気になぎ倒す

「次はこれですよ」

『STRIKEVENT』

## 『STRANGEVENT』

さうしてストライクベントとストレンジベントを同時に発動し、右手にドラグクローラーを装備する。さうしてストレンジベントで発動した力ードを装填する

## 『TRICKVENT』

ストレンジベントで現れたトリックベントを使用し、分身をする。そしてドラグクローラーでそのうち一体を殴り、さうしてよつてきた複数の骸骨も足で蹴り倒し、圧倒している。

「そろそろおしまいだね」

そして僕はカードを装填する

## 『FINALVENT』

そしてドラグブラッカーが僕の周りを螺旋状に囲み、宙に浮く。そしてドラグブラッカーが吐く炎により硬化した骸骨集団めがけ、

「はああああ！……！」

ドラゴンライダーキックを浴びせかけた。

「終わった終わった

そしてロストロギアを手に取ると、そこには

「？？？カードデッキ？ブランクだしな・・・」

僕が持つリュウガのカードデッキに似ているが、龍の意匠がなく、ただの黒い箱だった

「とりあえず兄さんに持つていいくか

side out

side 炎忌

『スキャニングチャージ！』

『GENOCIDE!! MAXIMUM DRIVE!!』

「オクトパニッシュ！」

「ライダーキック」

俺たちは管理局員に対して、玲人はシャウタコンボで、俺はジエノサイドマグナムでそれぞれ攻撃し、最後にまとめて必殺技でぶち殺したというわけ

「あ、終わったか」

「速かったな零時。もう終わつたけど」

「我が弟よ、これが兄と炎忌の実力だ」

零時はバッカルからカードを引き抜き変身を解く、玲人もオーズ

ドライバーを元に戻して変身を解き、俺もロストドライバーのメモリストを縦に戻し変身を解く。そして零時が取り出したのは、

「お前の持つているカード『テッキ』に似てているな・・・後で調べよう」

「兄さん・・・笑いが怖いです」

うん、それよくわかる

side out

## データ5 微・弱・電・波（後書き）

玲人＆零時の紹介は次回載せるつもりです

## データ6 神山玲人＆神山零時のデータ

名前：神山玲人

性別：男

年齢：16歳

魔力：無

デバイス：無

特殊所持物：コアメダル、オーブドライバー

説明：慈円炎忌の少ない友人でもあり、ジエノサイダーを作った。全次元世界の5人の一人に入るほどのハッキング力を持つている。さらにジエイル・スカエリツティをしのぐほどの科学力を個人で持っているため管理局から狙われている。魔力は無であり、リンクーコアも存在しない。彼単独でアルハザード、あるいは神の領域にも行けるといわれている。とある経緯で手に入れたコアメダルを3つのメダルにまとめるという荒業を見せる。

容姿：鏡音レンを白髪にして瞳の色を白色にしたらこうなる  
所持メダル

タカ	1	タカ	1
チータ	1	チータ	1
クワガタ	1	クワガタ	1
ライオン	1	ライオン	1
トラ	1	トラ	1
コンドル	1	コンドル	1
カマキリ	1	カマキリ	1
バッタ	1	バッタ	1
サイ	1	サイ	1
ゴリラ	1	ゴリラ	1
ゾウ	1	ゾウ	1

シャチ 1

ウナギ 1

タコ 1

コブラ 1

カメ 1

ワニ 1

ブテラ 1

トリケラ 1

ティラノ 1

頭計コアはすべてタ力に、 胸系コアはトラ、 脚系コアはバッタにまとめられている

名前：神山零時

性別：男

年齢：15

魔力：無

デバイス：無

特殊所持物：リュウガのカードデッキ

説明：神山玲人の弟で、普通の中3。頭は兄並みに良く、顔がいいため女子からの人気がある。常に敬語つぽい口調で話すのは本人いわく「格好よさそだから」らしい。レディファーストの精神で行動しているために、女子が困ればすぐ助ける。女子を泣かせた奴はフルボツコする。というめちゃくちゃである。しかし、女子でも人を泣かせれば許さない。筋は一応通すらしい。リュウガのカードデッキは玲人作製であり、ドラッグブラッカーも疑似生命体である。ちなみにカードデッキの強度はオーズプトティラコンボのグランド・オブ・レイジを受けても逆に跳ね返すほど硬い。攻撃の特性も無効化できる。バッカルはカードデッキを前に突き出すだけで現れる。さらにどこからでもミラーワールドへ入れる。トンデモと言つていい。ドラッグブラッカーは普通に食事と水があれば生きていける。

所持カード

ADVENT

原作通りドラグブラッカーを呼び出す。7000APと原作より割増

SWORDVENT

ドラグセイバーを呼び出す。3000AP

GUARDVENT

ドラグシールドを呼び出す。3000GP

STRIKEVENT

ドラグクロールを呼び出す。3000AP

ACCELERATORVENT

加速する。原作にはないカード。

STRANGEVENT

その場の状況に応じたカードになる

FRIEZEVENT

相手を凍りつかせる。

FINALVENT

ドラグブラッカーが硬質化させる炎を相手に吐き、その相手にドラゴンライダー キックをする。8000AP

サバイブのカードを一応あるらしい。

容姿：鏡音レンの髪を黒くし、瞳を青色にした感じ。男版BRS？

## データ ホテル・アグスタ（前書き）

あの事件とからみますが、機動六課はあまりというか出ません。そういう小説ですから

## データ7 ホテル・アグスタ

s i d e 炎忌

「レリック取引?」

「その裏にさ・・・セルメダル1000枚の取引があるんだ。セルメダルつづるのはコアメダルの劣化版みたいなもんさ」

しかし馬鹿に出来ないらしい。6枚くらいでSSSオーバー行くらしいからな。塵の意地?まあいいや。それにしても・・・

「何故奪い取る?」

「兄さんの研究対象としてふさわしいからだそつ・・・です」

零時・・・お前、本当に苦労しているな。まあいいや、でもさ・・・チケットどうするのかな?やっぱり違法ルートだよね。俺らの場合

「そう思い違法に入手しました。タキシードもあるよ」

話が早すぎる!...もうちよい個人の人権無いの!?

「兄さん僕り「美人いるかもしねないぞ?」行きます!...ぜひ行かせてください!!--」

こいつもこいつで、乗せるの簡単すぎだろ・・・仕方ないし、それにもうまい飯ありそうだし

（当口）

「玲人も以外と似あうんだな、タキシード」

「俺たちほど似合つ高校生はいないぜ……」

「兄さん叫ばないでください。周りの、特に女性に迷惑です」

そして零時がキュピーン……となる

「どうしも「あんな・・・美人な女性がこの世に居るのか・・・」  
やば」

「口説い」

「「やめろ」」

零時には拳骨で許してやりホテル内へ行く。それにしても・・・

（兄さん、あの人たちの落第点は）

（高町なのはつつう奴の魔法は砲撃魔法主体だからこんなにこうでは使用できない。あのフェイトとかいう女の魔法もしかり、それに隊長自ら行かないのもいただけないぜ）

（そうですか・・・一人の女人としてみればとても美しいのです  
が）

（二人ともうるさいぞ、取引の時間までにばれたら元も子もないからな）

俺はそういうと眼を凝らす。零時はまた女を口説きに行っている。  
ああ～またやぶれたな。こりないねえ。ま、玲人が肩を叩いてきた  
な・・・

（炎忌、ガジェットがきているらしい。どうする？）

（作戦に支障がでる。機動六課のお方がやつてくれるだらうから、  
ほつておけ）

（ああ・・・あともう一つ追加だ）

（取引の品の追加？何故だ

（ファイズギア、カイザギア、デルタギアが追加された。デルタギ  
アとファイズギアを奪つてデルタギアを壊すぞ）

（なんでそのデルタギアだけ壊すんだ？）

（あれは危険物だ。ファイズギアのほうは然るべき人物に渡す）

（おK）

とりあえず俺たちは一旦別れることにした

side out

## データ8 ホテル・アグスター2（前書き）

続きだぜ・・・

## データ8 ホテル・アグスター2

side炎忌

「あと何分?」

「あと10分だ。零時、行くぞ」

「分かりましたよ・・・イエス・レティース・ノータッチの精神に従い・・・」

れいし、はせとつをひらいたようだ。どうある?

眼を覚まさせる そのままにしておく ネオアーム(ry  
きゅう

「そのままにしておけ」

「ああ・・・」

「何ですか?」

「「至つて正常だなおいー?」」

そして俺たちは取引場所へと向かった。

side第二者  
sideout

（取引場所）

「おい！…ガジェットが攻めてくるらしいぞ…！」

「速く取引を終わらせてトンズラするぞ…！」

「こんなのはオサラバだ…！」

そして、2回目に言葉を発した男の首がはねる。そこには

「遅すぎますよ？」

リュウガに変身していた零時がドラグセイバーを握りながら言つていた。そして残りの2人の後に炎忌がいつの間にかファイズ、ライザ、デルタの3つのドライバーに加え、帝王のベルトを奪い取り、1人の男は玲人に首の骨を折られ、最後の一人は心臓を炎忌に正拳突きで突かれて絶命した

「これがファイズギア」

「カイザギア…・・か」

「デルタギアですか」

俺たちはどうやらやることが決まったようだ。俺はキーで5・5・5とうち、折りたたむ。零時は「変身」と言い、玲人も何かの数字を擊ち込んだようだ

『『『standby』』』

「「「変身！！」」」

『『『complete』』』

そして俺、玲人、零時をそれぞれ、赤、黄色、蒼の光が包み込み、そこに立っていたのは

side out

side 第三者視点

炎忌が変身した仮面ライダーファイズ、玲人が変身した仮面ライダー カイザ、零時が変身した仮面ライダー デルタがたつっていた。このツールはオルフェノクでなくても変身できるようだ

「さて・・・突破するぞ」

「ええ、長居は無用です」

「吹っ飛ばす！！」

そして玲人、炎忌はそれぞれのツールに106と入れ、零時はfireと音声入力する

『『『burst mode』』』

そしてそれぞれの連射された光弾でほとんどのものが吹っ飛び、そこから、ファイズ、カイザ、デルタの3人が抜けていき、変身を解く

「しつくりきませんね」

そう言つて玲人に投げ返し、カードデッキを前に突き出す零時。零時の腰にはバッグルが装着され、そこにカードデッキを差し込み、リュウガへと変身する

「俺もバス」

炎忌もファイズギアを投げ返し、ロストドライバーとジエノサイドのメモリを取り出す

『GENOCIDE!!』

「変身」

『GENOCIDE!!』

そして仮面ライダージェノサイドに変身する。

「やはり適合はするものの・・・体に合わないか・・・まあいい、エネルギーを取り出すだけ取り出して捨てるか」

そしてオーズドライバー＆コアメダルを取り出し

『タカー！トーラー！バッタ！タ・ト・バ！タトバタ・ト・バ！』

玲人はオーズ・タトバコンボに変身するそして3人は走つてその場を離脱した

side out

## データ9 転・生・兄・弟（前書き）

はい、すぐやられますけじね。 転生者

## データ9 転・生・兄・弟

side炎忌

・・・・・・・・・なんか変な気配が朝からする。まるでつけられているような・・・視線を感じるような・・・・・俺はデバイスを起動させるタイミングを考えながら人気のない場所へ誘導してみる。案の定まだつけてきて、立ち止まつてみた

「・・・・・おい、出てこい」

「兄ちゃん、あいつ転生者かな？」

「当たり前だ」俺はあいにく前世の記憶なんかなくてね」つち、始末するぞ」

「え・・・・なら俺も

「殺らせもらおうかね。セットアップ」

俺はテンペスタを起動させてバリアジャケシトを纏う。

「焰劍」  
えんけん

焰で刀身が出来ている刀、焰剣を振り回し、相手に斬りかかる

「甘いね、時を操る程度の能力」

そして、次の瞬間には後に回られてたたき落とされた

「がはあ！…今のは一体！…？」

「時を止めて移動した…兄ちゃん、次だよ」

「おく、境界を操る程度の能力」

そして横からは、電車…電車！？

「があ、あああああ！…！…！」

電車で轢かれるとは……いてえ。

「毒を操る程度の能力」

さらに変な気体を吸い込むと、とたんに体が重くなつた

「うう……重すぎる……」

「死ね、雷を操る程度の能力」

「か、あ、ああ！…！」

畜生……でたらめだ……一撃が致命的なダメージを与えやがるぜ……何てね

「焰分身だぜ……死ね」

そして一人を突きさすが……死なずに再生した。何故！…！…？？…さらにもう一人を突きさすとそいつも再生した！…！…？

「死なない程度の能力だよね、兄ちゃん」

「ああ・・・死なないのさ俺たちは。だから・・・死ね」

「矛盾している・・・「炎忌を殺させるわけにはいかない」玲人  
！」

流石だねえ・・・俺の友達は

side out

side 玲人

「へえ・・・かわいがつてくれたじゃない」

俺はオーブドライバーに紫のコアメダルを入れ、オースキャナーで  
スキヤンする

『プララ！-トリケラ！-ティラノ！-フトティラのザウルス』

そして一人に近づいて一気に切り裂く

「こんなのすぐ再生・・・しない！？！」

「兄ちゃん！？！」

「再生するのなら・・・無に帰せばいい」

俺は静かにそう言つと、メダガブリューに入れ、ティラノの頭部を  
模した物でセルメダルを噛み砕くようにする

『ゴックン!! プットティラノヒツサツ!!』

「死ね」

そして一人のほうを倒すと、もう一人のほうに振り向く

# 『スキンシングチャージ!!』

死ね・・・・炎忌・・・俺の親友を殺そうとした罪は、重いぜ？」

トリケラのワインドスティングガード貫きプテラのエクスターナルフインの冷氣で凍らせ、そして、ティラノのテイルディバイダーを尻尾のようにしたたき壊した

「ハンティーポーが、出来ないようになつておつまア」

そして変身を解き、炎忌を担いで家へと帰つた

side out

## データ10 全・力・全・開(前書き)

機動六課は出ないよ！…そういう小説だし。出るかも…？

## データ10 全・力・全・開

s.i.d.e炎忌

「ひどい目にあつた」

「災難ですね、炎忌さんも・・・僕が殺りたかった」

「物騒な事言つな・・・六課の盗聴しているんだから・・・」

何気に一番物騒な事を言つ玲人、何故盗聴する・・・o'ren

『ねえ・・・私の教導、そんなに間違つてる?』

そこには高町なのはらしき人物がオレンジ髪の女の子に対して一方的な喧嘩をしているところだった

「おお・・・繫がつたで」

「静かにしろ炎忌」

「ハイ」

ん?零時がプルプル震えているが・・・まさか!?!?!?!?あいつあの場に乱入してあーだこーだする気だぞ!

「兄さん、ミラーワールド有効活用します」

「OK」

「許可出すなあああ！……」

side out

side 零時

高町なのはに介入する……次いでに管理局にでも釘を刺しておきますか。ライドショーターでミラーワールドを突っ走つておりますが……あ、もうついた。僕はミラーワールドでの現場に行くと、そこから現実世界へと戻ります

「ついたついた……貴女達の会話、せっせと聞いてたんですよ」

「そり……あなたから頭、冷やそつか」

「女性には手を上げたくありませんが……仕方ないです」

『ADVENT』

……

そしてドラグブラッカーを呼び出すと、その上に乗り飛翔する、そしてあのカードを取り出すと、腰についたブラックドラグライザーツバイの口に装填する

『SURVIVE』

そして、僕の体に後付けされたような漆黒の装甲がつき、ドラグブラッカーもブラックドラグランザーへと進化した

「さてと……本気を出すか

口調が変わったのは、俺の本気を出すときにはしかでない素の面だ。いつもは敬語っぽいものを使つて『まかしているが本来は』こちらのほうなのだ

「手前、さつきのボコリが教導だとか言つてたよな・・・」

「私の教導に他人の貴方が難癖つけるのかな・・・？」

「氣迫がす』』ねえ・・・でもさあ

「あんな一方的なのが教導と言えるならも・・・お前を』』で葬る」

そしてブラックドラグライザーツバイの後頭部にあるハンマーを引き、そこにカードを装填する

『SHOOT-VENT』

そして一気に近づきロックオンをする。そしてもう一度離れる

「そんな攻撃じゃ・・・意味ないよ、アクセルショーター」

そしてこちらへ魔力弾を一気に撃ち込むが・・・動きがすこし荒いよつな気がします。

「ブラックカー、やつてやれ」

構わずシユートベントのもう一撃、ブラックドラグランザーの火球を撃ち込む。しかしそうに避けられ

る、がロックオンしているので追尾してくるが、

「ディバインバスター！！」

バカでかい砲撃でかき消された。非殺傷設定じゃ威力が足りない！！

「つち、接近戦に持ち込むしかねえか」

『SWORDVENT』

ブラックドрагライザーツバイの本体から、短剣が展開される。そしてブラックドрагランザーで接近し斬りかかる。しかしそこはサイズの差というものが出てくる。相手は小回りが聞くが、こちらはでかすぎて効かない。ま、これを使えばいいか

『WINGVENT』

そして背中にはブースターのようなものが付き、飛行可能になる。非殺傷設定にしてあるが。本気で行くぜ

「なつ・・・・・」

「甘い甘い甘いんだよおつお！――！」

そして五連続で切り裂き、蹴り倒す。そしてブラックカーの火球をぶつける。名前が長いからサバイブ使用前のブラックカーという名前で呼んでいる。もろに食らったし・・・そろそろ決める・・・

「スターライト・・・・」

「仕方ない！！」

「ブレイカー！！！！！」

# GUARDVENT

そして黒い炎の壁で防ぐが、耐えきれないらしく、すぐに砕け散る。何とか回避をするが、少しダメージを受けてしまった。

「仕方ない・・・・使いたくなかったが、お前がそこまでやるのだから

FINALVENT

「はああああああああ！」

ブラックカーの上に乗り、バイクモードに変形させて、空中に黒い道を展開してそこを走り黒火球をどんどん撃ち込む。そして煙を上げ、そのすきに高町に硬質化させる炎を当てた

車体を高町に当てるごとに、そのままサバイブ体を解いて地面に着地し、  
ブランカーを普通の状態に戻し、さらに

# STRANGEVENT

BINDVENT

拘束する。さらに管理局に

「管理局さん・・・・？これが僕たちの戦力です。今日は非殺傷設定で戦いましたが戦場では、本気で殺しに行きますのでご注意を。それがいやならば僕たち、神山玲人の所在を探してはダメです・・・命が惜しくないのならどうぞ、探すなりなんなりしてください。生きて帰れる保証はありませんけどね」

そしてミラーワールドから自分の家へと戻る

「玲人牢」

「終わった」

「玲人あんな宣戦布告並みの事して大丈夫なのかよ？零時は素が出てたし」

「大丈夫だよ・・・」

「そう、あんな腐っている組織に負けるはず、ないじゃないですか？」

side out

## データ10 全・力・全・開（後書き）

文才がなくて本当にすみません、原作知らなくて本当にすみません

## データ11 青・空・既・死(前書き)

- 久々で済みません。ブレイドのオリジナル変身の仕方が思い付いて  
1、ラウズアブソーバーのQのカードを入れる場所にスペードのA  
チエンジビートルを井入れて変身する。このときの音声は『ch  
ange up』
- 2、キングフォーム・ジャックフォームの強化は同じ。
- 3、ブレイラウザーはカード収納機構がオミットされている。
- 4、必殺技はブレイラウザーにキングのカードをラウズすることに  
より、キングブレイク。Jのカードをラウズすると、ジャックキッ  
クを発動できる。なぜAPチャージの技が発動しないのかというと・  
・・APという概念がないので。玲人作のラウズアブソーバーは・  
・ (汗)
- 5 キングフォームの2~10のカードはブレイラウザー・オミット  
の中に収納されている。
- ・・・・・無理やりじゃねえか!!修正したのに

テ・タ11 青・空・既・死

s i d e 零時

ひざびさに殺る気を出してしまいましたね・・・氣をつけなくては。あんな女性を殺してしまつたら男として顔が死にます!!まあそれはいいとして・・・さつきからつけられていますね。裏路地に誘い込みますか。そして裏路地まで行くと、案の定ついてきた。立ち止まつても動いてきて、不意に背中に誰かがぶつかつた

「……さつきからつけていましたね。ストーカーですか？」

「ふええ！？」

「いやいやいや！ 急に声をかけて済みませんでした」

平常心平常心平常心  
それにして、こんな美人は、一見され……  
まさか

「もしかして・・・管理局に命令されましたか?」

1  
! ?

図星でしたか・・・やはり糞ですね。あの管理局は！－！こんな美しい女性を実力もなさそうなのに危険な任務に！－！最低最悪の組織ですね

「動機とかは言わなくてもいいんですけど……管理局に弱みとか握られていそうですね」

「はい……実は……」

「ふむふむ……読者の皆様には教えられませんね。プライバシーですから

「なるほど、復讐したくありませんか？自分をこき使つ管理局に」

「…………」

「選ぶのはあなたの自由です。しかし、護身用にこれを渡しておきます」

僕はそう言ってアブソーバー……仮面ライダーブレイドに変身できる装置を渡す。本来はブレイバッклが必要なのですが、これはその必要をなくしたもののです。

「決心がついたなら、ここに来てください」

僕が提示したのは……管理局支部がある世界の一つ。ここは近々つぶそうと思つたんですけどね……まあいいですか。おっと、忘れていました

「貴女の名前は？」

「私の名前は……結城奏です」

「結城さんですか……いい名前ですね。では、決心がついたら後

「田

そつまつて僕はその場から離れました。できれば味方になつてほしいですね。でもアブソーバーを持たせておけばある程度護身はできるはずです。あ、ちなみに使用の仕方の解説の紙も同封しましたよ。だつて女性が困つてしまつては元も子もありませんから！－！。

side out

side零時

「で、渡しちゃったのかよ！？」

「美人なのでつい」

「管理局にばれなきゃいいが……いざとなれば俺が処分するからいい。んで」

兄さんが一枚のカードを取り出す……それはタロットカードで、英語で運命と書かれていた。どういう意味でしょうか？兄さんはこうこうのを出すのは珍しいですね

「俺らはジョン・スカエリッティに協力する。あとスカエリッティ宅にはすごいかわいい女の子が一人くらいいるとかいないとかいな」と

「どうぞお願ひします！！」

ナンデスト！！！オンドウルララ……またオンドウルつてしまつた。猛省しなければ……

「では、明日は少し遠出をしますので」

「分かつた」

そう言つて僕は自分の部屋へと戻り、寝た

～次の日～

「やはり・・・管理局に弱みを握られていたら駄目ですか・・・」

僕はそう思い、一人で決行しようと思いましたが。不意に足音がし、身構えるとそこには結城奏さんがいました。やはり来ましたか・・・

「す・・・すみません。許可が下りるのに手間取ったもので・・・」

「いいですよ？これからやるんですから」

そして結城さんのほうを向くと・・・ずいぶんと変わった眼しゃがってるな・・・まさかとは思つが

「結城さん。まさか？」

「はい・・・脅していた管理局員20名を少々、殺しました」

やつぱりか・・・恐ろしい。でもかわいい！・・・ヤンデレ最高・・・読者の皆様すいませんでしたあああー！！！性癖もうだししてえええ！！！！

「零時さん？なんか後悔してますね。顔が

「すみません・・・さて、つぶしてお茶とでもしゃれこみましょうか」

そして僕はカードテック、結城さんとラウズアブソーバーのインサートリークードにAのカードをいれる

「「変身」」

『ヒーローハウス』

そして僕は仮面ライダーリュウガ、結城さんのせいぜい仮面ライダー  
ブレイドに変身し、ブレイラウザーを構える。

『SWORDVENT』

「わー・・・行きましょつか。血塗れの剣、ブレイド」

「へ？ブレイドでしたよね・・・」Jのライダーの名前

「ブラッティとブレイドをかけたんですね」

そして先に突入し、カードを読み込む

『ADVENT』

そして「ラグブラッカー」を呼び出し、現れた局員を尾でつきやし殺す。さらにその死体を他の局員になげつけて、結城さんのブレイラウザーが貫く。それにしてもたじろいだり、気持ち悪くなつたりしませんね・・・壊れてしまつたのでしょうか？心が

「はあ……」

結城さんはすくへ強いです。戦闘訓練を積んでいない人とは思えませんね。まあ、結城さんに任せておけば大丈夫でしょう。

「結城さん、僕は左から行きますので、右をお願いしますーー！」

side out

Side 結城

「結城さん、僕は左から行きますので、右をお願いしますーー！」

そう言つと零時さんは突如左側の道へと言つてしまつた。ここをま

楽しい楽しい殺戮タイムだしね？邪魔されたくないよ。ボクはね

It's a showtime

そしてボクは一人を貫いてから頭まで袈裟に切り裂き、脳髄を露出させる。それをもう一人に投げつけ、脳髄もろとももう一人に貫く。魔力弾が当たるがまつたくもつてダメージがこないので、気にせずラウズアブソーバーのスラッシュリーダーにキングのカードをラウズする

Evolution kinderg

そして13枚のアンデットと融合し・・・ブレイド・キングフォームへと進化したボクの姿を哀れ、管理局員はおびえている。

「情けないなあ・・・楽しみはこれからだよ?」

## データ13 殺・戮・少・女

side零時

「結城さんに任せたけど……大丈夫ですかね」

僕は左の道へと向かつたが、誰も居なかつた。いや、いましたけど叫ぶ前に全員殺しておきました。たとえ女性でも……俺の邪魔をするなら済す

「結城さんは……」

口の奥から何ががこみ上げるのを必死でこらえながら、その光景を見ていた。凄惨すぎる。誰かの脳髄が露出し、口からじん（以下自主規制）

「結城……さん？」

「か……みやま……さん……？」

どうやら結城さんがこれをやつたようだ。キングフォームの鎧や剣には肉片がついていて、むきをせらに強調させていた。僕は変身を解くと結城さんのほうまで近づいた。結城さんも変身を解いた。そしてA・Q・Kのカードをラウズアブソーバーにしまつと、不意によひけた

「お……つと、大丈夫ですか？」

「少し疲れて……すみません」

「いや・・・むしろ初めてで『じま』でやるほつが・・・せつせついつて異常です」

僕は思つたことをそのまま口にするが、結城さんはそれほど驚いていなく、むしろ口に少し笑いを浮かべた。それにしても・・・すごい鬱憤が溜まっていたのか。異常性が高いのか。謎ですね・・・それにしても今の構図最高ですよ！！！背中におぶつているんですよ！！！女性を！！！これが熱狂しないわけ・・・すみません

「重いんだつたら・・・おりますけど」

「いえいえいえ！！大丈夫ですよ・・・」

そつして僕らは玲人兄さんの部屋まで戻つた  
（玲人の部屋）

「そつちのアンタが結城奏か・・・」

「どうも・・・結城奏です」

兄さんに結城さんを紹介すると、兄さんは眼の奥のハイライトが少し変わつた。あれは・・・興味を持つた時

「ああ・・・お前は今日から俺の仲間であり、俺の家族だ」

「ふえ！？」

「兄さん・・・ま、家の居候としていてくれればいいよ」

「と、うわけで、部屋に案内しろ零時。お前の部屋と同じになしな」  
そう言つと僕は結城さんを部屋へと連れて行つた。結城さんはすく驚いた顔をしていた。なんででしょうね？

「あの……えっと……ありがとうございます」

「いや…………遠慮なく何か言つてくださいよ。」

「じゃあ・・・生活用品を買いに行きたいんですけど・・・明日

「いいですよ」

side out

## 結城奏のデータ

結城奏・ゆうきかなで

性別：女

年齢：15

容姿：灼眼のシャナのシャナの容姿を髪を蒼みがかかつた黒色で、瞳は蒼色

特殊所持物：ラウズアブソーバー、ラウズカード、スペードスート  
13枚

説明：管理局に弱みを握られ、強制的に神山零時の尾行をさせられていた。零時に見つかってから、ブレイドとなるが、あまりにも人を殺戮しつづくので、ブラッディブレイド・・・ブライドの名前を与えられる。本来はブレイドだが結城は今後、ブライドと名乗るらしい。実は転生者だが、1歳ごろ転生したので実質転生者ではない。性格：常におどおどしている。しかし性格が変わると人を殺すのを楽しみとしている

ラウズアブソーバーの説明：ラウズアブソーバーのインサートリー  
ダーにスペードのAを入れることで変身する。音声は「chang  
e up」。ブレイラウザーとブレイバッклの機構はオミットされ  
ている。ブレイラウザーの場合はラウズするのにJKのカードし  
か受け付けない。しかもAPという概念がないので、無限使用が出来  
る。体力の続く限り。ジャックのカードをラウズするとジャック  
キック、キングのカードをラウズするとキングブレイクが発動する。  
A・J・Q・K以外のスペードのカードはブレイラウザー・オミッ  
トの中に収納されている。ジャックフォーム・キングフォームへの  
強化は普通どおり。

魔力レベル：B  
デバイス：なし

以上です

結城「あの・・・ありがとうございます」

零時「かわいい！！！」

靈宮「とこづわけでこれからもう少しへお願いします」

## データ14 機・動・六・課（前書き）

機動六課の休日とリンクしています。スバル＆ティアナと出会つ。あとヴィヴィオ、ついに玲人が原作ブレイク。炎忌の胃の運命はいかに？零時不幸、奏ある意味やばい・・・炎忌＆奏は多分嘘。すみません

## データ14 機・動・六・課

s.i.d.e 零時

「す、いことこりうですね！」

「ええ、クラクナガンでしたっけ

傍から見ればカッフル。う、えい。まあいいけどね。今日来たのは生活用品、衣料品、etc. . . . というわけである。割愛したのはすみません。ちなみに黒色のバイク・ブルースペイダーと言うバイクの青色の部分を黒くした、ダーグスペイダーという奏さん専用バイクを運転していました。僕のバイクですか？ライドシユーターですよ。だからなんですか？」

「まあ、ほとりあえず・・・・・生活用品ですね

「はい、迷ひそつですね

「といいながら向て僕の手を握て」・・・・・（ひりむひり）「はい、分かりました」

「これくらこがちょうどいいですかね？」

「そうですね・・・・でもあれもいいかも

いろいろ買つ・・・・（合計一万円くら）。でかい筆筒とかベッドヒ

かは玲人兄さんが用意) し・・・

「意外と可愛い服選ぶセンス無いような気が・・・」

「いいんですよ!-!」

服がやばかった(白色Tシャツで、前の中心に『GOKUUDO』『UOUDOU』と書かれていた。女の子はそういうの選ばないと思います。ガ○ダムとかインフ○○○トストラ○スとか侵○!-イカ○!-とか全部却下しましたが。僕も好きですよ?ガ○ダムとか侵○!-イカ○!-は)~零時が行く先には女の子がいますよ!-!~

「テロップ直せ

「誰に行つたんですか?」

僕たちはアイス屋に来ていたが・・・・・ここで奏さんがふと、右を向いていた

「誰ですか?」

「機動六課の人です」

まずいですね・・・・・ここは適当に煙に巻いて逃げるしかないですか・・・ま、かわいいからゆ

「あ、奏ちゃんだよ!-!ティア!-」

前言撤回・・・逃げたいイイつい!-!-!-!女性にあつて逃げたいと思ったの俺初めて!

「あ、奏じゃん。久しぶり」

「...」

やべー・・・クリアーベント欲しい、いやむしろ使いたい

「隣の人誰？彼氏だつたりして！」

111

マジこの子怖い。恐ろしい。

「神山零時です。どうも」

幾分か声を変えたんですけどね、低めに、少しだけ。青色の髪の人  
は気付いていないようですけど、オレンジ色の髪の人・・・ティア  
さん？でしたっけ。この人は少し気付いているようですね

「なんか零時さんどど」かで会つたような気がするんだけど?」

「ティアさん？ でしたつけ。それはないと悪いんですけど」

うん、あの時の子か・・・・切羽詰まつていて見ていなかつたけれど・・美人です！！

「私はスバル・ナカジマです。よろしくおねがいします！」

「ティアナ・ランスターよ、ようしけね」

「ええっと・・・中島スバルさんにティアナさんでしたっけ? こち  
ら『ナニナリ』といふ曲がおねがいします」

「違いますー! スバル・ナカジマです!」

ありやりや・・・間違えてしまったようですね。そして・・携帯の  
着メロが流れ出した。この曲名は確か、『リコリリ バーニングナ  
イト』とこう曲でしたね

「はい・・・なんだ兄さん。ええ・・・分かりました。せっかく  
の休日なのに・・・分かりましたよ・・・では後で」

そして携帯の通話を切ると、よつじりせ、と椅子から立つ。

「奏さん、急用が入ったようです」

「そうですか、すみません・・・スバルさんにティアナさん」

そして荷物を持つと、席から離れる。あ、忘れてた

「アイスの代金、置いておきますね」

「あ、ありがとうございます!」

「なんかもう・・・本当にすみません」

スバルさんが田をうんうんと輝かせて言い、ティアナさんが頭を押  
さえながら言った。

「ではこれで

「わとうひなり・・・（次に会うときは敵ですね、すみません）」

そして、ダークスペイダーまで戻ると、サイドカーに荷物を積んでおき、奏さんに任せておき、頼まれたことを…

ジエイル・スカエリッティのアジトから脱走した聖王のクローン確保に動いた

side out

## データ14 機・動・六・課（後書き）

スバルとティアナの口調分からんかった・・・一次創作で保管して  
いたが

## データ15 複・製・少・女 前篇（前書き）

今回から零時がしばらく主役！！！リリカルなのは無印に零時介入してめちゃくちゃするぜえ！！！（一話だけだけど。しかもリリカルなのは the movie first だし）を修正したぜ！！

デー タ 15 複・製・少・女 前篇

側零時

「え、と、どこかな・・・聖王のクローンちゃんは」

僕が少し下水道を歩いていると、それらしき子供があるいκ・・・  
なんだルーテシア＆アギトじやん・・・彼女たちも探しているのか  
な？それに・・・どうやらしばらく帰れそうにないみたいですね・・・

「あ……零時……あなたの兄さんのおかげで、母さん田覚えた……」

「おー零時じやねえかーーー久しぶりだなーーー」

「久しぶりですね・・・ルーテシアさんにアギトさん

家の兄さんがスカさんにO H A N A S H I IとO N E G A Iをしてルーテシアさんのお母さんのメガーヌさんを田覚えせたんです。まあいいとして・・・・・見つからない

「見つかりませんね。六課に見つかったら厄介ですし」

うん・・・・

とりあえず行きますか

side out

「玲人さんも・・・・お楽しみタイムを邪魔するなんてひどいですね・・・・いいとして、バイク運転するのって自信ないんですね・・・」

ボクは正直いつてバイクは免許は持つてているけれど運転したことがあまりない。世の中で言つペーパードライバーってやつです

「ま、いいか・・・・」

ダークスペイダーにまたがると、エンジンをかけて少しすると走りだした。行つた道を戻り、今は自分の家となつた零時さんの家へと向かう。零時さんの家は曰くから炎忌さんを泊まらせていたこともあつてか居候に寛容的だ。零時さんの両親もすうごい優しいし・・・・・ボクの本当の家族よりも自分の家族のような気がする。

「ボクの親は・・・・ひどかつたからね」

ボクの親は、常田頃からボクに虐待をしてきた。拳句の果てには殺されかけたことも数えるには両手の指では足りない。なぜか怨まれていた。何故かは知つていて。ボクの家は魔導師の名家で、跡取りには男のほうが有利だつたんだ。でも、男の子は生まれてすぐに死んで、代りにボクが生まれた。でもリンカーコアが僕ではなくて、役立たずや落ちこぼれなど罵倒されて成長した。成長する過程で犯罪や人殺しなんて普通にやつっていた。死体から金を奪い取り、生計を立てる日々・・・・それが管理局にばれてしまいこき使われていたんだ

「 ちいさつと、零時さんにはあったのはキセキなんだ・・・」

と、僕は思った。なら、零時さんのために何か、しようかな・・・

料理とか

side out

side 零時

「おーい

探ししているが。I NA I NE!! ちなみに俺口リコンじゃないからね? おい今口リコンって言つた作者の友達誰だ! ? ラレハクサマラムツコロス!! あ・・・・・ オンドウルつてしまつたぜ・・・・・ 猛省せねば。そういうえばナンバーズの誰かに王蛇のカードデッキ上げなきやな・・・ なにつて兄さんからに決まつているジャマイカ!!

「変身」と「」

とりあえずリュウガに変身。そして一枚のカードを取り出し読み込む

『SWORDVENT』

武装。近距離戦闘が持ち味なので。あーあ、美人が歩いてこな・・・

「あ・・・・失礼しました」

「はい・・・・つて軽くまとめないでください! ?」

あ、美人。えーと・・・ 中島スバルにティアナさん? ニショタヒロリ。そして美人! ! ! なんて幸運なんだ! ?

「そこの中「なにやつてるの・・・?」すみませんもつ調子乗らな

「だからガリューのアレ向けるのやめて  
くださいマジでお願いします」

「どうやら見かねてルーテシアが来たようだ。うん、サバイブですね。  
サバイブのカードを取り出すと、召喚機がドラグバイザーからドラ  
グバイザーツバイトに変化した

『SURVIVE』

「やつあおづぜ?」

そして戦闘が開始した・・・

side out

side 玲人

「へえ~」

俺は聖王教会にハッキングして情報を探ると、ずいぶんと面白いも  
のを見た

旧き結晶と無限の欲望交わりし時

死せる王の下 聖地より彼の翼は蘇る

死者は踊り 大地の法の塔は虚しく焼け落ち

それを先駆けに 幾多の海を守りし法の船は地に落ちる

だつたのだが、その予言にさらに追加されたものがある

旧き結晶と無限の欲望交わりし時

死せる王の下 聖地より彼の翼は蘇る

死者は踊り 大地の法の塔は虚しく焼け落ちる

欲望の王を超える欲望が生まれし時

究極の闇と闇を纏いし神が復活する

殺戮者達と進化した人間が闇を倒す

しかし 世界に異形達が進軍し 世界を壊す

それを先駆けに 幾多の海を守りし法の船は地に落ち

やがて世界に 終焉の鐘が鳴るであらつ

「めちゃくちやだ・・・・・ 欲望の王は俺、殺戮者は炎忌、達とつく  
のは奏に零時か」

進化した人間・・・・・あいつのことか

「炎忌、俺、零時、奏、光月彰ー・・・・・」

そう・・・・・終焉の鐘・・・・・あのコアメダルを覚醒させないた  
めにも

side out

side 零時

「回収・・・・・はいいけどさあ・・・・ルーテシア」

「・・・なに」

「うわあああああああああん……」

「どうしてこんなに遅いんだー?」

・・・分からぬい」

いやマジでどうしよう・・・スカさんの胃もたれがまた進む・・・  
スカさん大丈夫かな?メガーヌさんも居るし

「よし、お前の母親に相談だ。マジで」

「……うん、頭が痛くなつてきた」

俺はルーテシアの転移魔法でスカさん宅まで来た。この家は主要な場所は普通の家だ。そして・・・

「あ、零時じゃないツスか？」

「あ、ウエンディやないですか？ちょうどいいですしこれ上げま

す

王蛇のカードデッキをわたす。契約モンスターがベノスネーカーしかしいな代わりに、ガードベントとストレンジベントとフリーズベントとサバイブ入れてあるからな、チート乙ですwww

「？」れなんスか？」

「カードテッキ、使い方教えてやるよ・・・」

いやエリアルボード展開しないで連れ去るなウェンティイイイイー！」

side out

データ16 複・製・少・女 後編（後書き）

柄に合わせて伏線を張りました。全部回収します

## データ17 進・化・人・類（前書き）

進化した人類 . . . . ライダーファンの皆さまなら分かる . . . . かも

## データ17 進・化・人・類

side 玲人

「もしもし・・・彰一か?」

『何だ玲人か・・・んで、お前から連絡とはな・・・』

『彰一、ミッドチルダに来い・・・お前の出番だ』

『分かつた』

俺は彰一の言葉を聞いてから連絡を切った。

光月彰一・・・仮面ライダーアギト。進化した人類とでも言つべき存在。奴と出会ったのは・・・管理外世界の一つだつた。アルハザードへ行つた直後に訪れた

『お前は?俺は神山玲人』

『ああ、僕は光月彰一だ。よろしくな』

俺たちはそうして出会い、今に至るわけだ。あの予言の進化した人類というのは光月彰一だと俺は考えた。さらに俺が開発したライダーシステムにライダーズギア、そして聖夜の扱うガイアメモリ・・・あれを使えばナンバーズ強化・・・さらに副作用をなくせばいい・・・ならライダーズギアは除外だ。なら・・・龍騎とオーデインのカードデッキは伝家の宝刀だな・・・

『玲人、なんか玲人に会いたいって人がいるつスよ』

何故ウハウハウテイが俺の家に居るのかは気にしないでくれ

「お・・・・あたのか」

俺が出迎えに行くと、そこには、完全学生の少年がいた

「何故その服?」

「いや・・・・この服しかなくて・・・・久しぶりだな」

「いや・・・・2か月ほどしかたっていないけどな・・・・読んだのは「うごく理由があった」

俺は彰一に予言の説明をする。案の定、彰一は驚いた。さらにその後に変わった予言の内容を説明すると、有り得ないという表情でいた。

「分かった。俺もしばらくなにして居るから」

「よろしく頼むぜ」

side out

データ17 進・化・人・類（後書き）

光月彰一 男 16歳

容姿：とあるの上条当麻そのまんま  
詳しくは次回で

## 光月彰一のデータ

光月彰一

性別：男

年齢：16

容姿：上条当麻のまんま。服もそのまま

能力：仮面ライダー・アギトへの変身能力

説明：とある世界で玲人が出会った戦士。玲人とは親友であり、良き理解者でもある。管理局の事は、「下がしつかりしてるが、上が腐っている」と表現している。零時や炎忌、奏などとの面識はない

仮面ライダー・アギト：原作とほとんど同じ

変身ポーズ：右腕をフォーゼの変身ポーズのような感じにして、オルタリングを出現させる。さらに腰の両脇のスイッチに両手を触れ、「変身！」と叫んで変身する

光月「と、いふわけで紹介終了……」

靈宮「簡潔にまとめたな」

光月「文字数やばくね？百文字もないと思つ

靈宮「この無意味な雑談をする必要もないし、劇場版仮面ライダー・アギトについて語ろ」

光月「氷川さんがよかつたな。G3-Xとしてじゃなく、氷川誠として戦つてG4に勝つのがよかつた」

靈宮「完璧ネタばれだな・・・俺もそこに感動した。シャイニングフォームも格好よかつたし。残念なのがストームフォーム出てなかつた」

光月「つーわけで次回を楽しみにしてくれ。明日か明後日には更新するかもしれないから」

靈宮「といつわけで次回」

## データ18 旅・人・登・場

NO side

とある森林に、神山兄弟に似た青年がいた。髪が緑色で、瞳が青色の青年、葉音流は、自分の着ているコートの中からディケイドライバーの白いところを青に塗りつぶしたディケイドライバーに似た、ディロンドライバーを取り出した。そして、彼の周囲にはいつの間にか怪人が10体ほどいた

「……邪魔」

そして、ディロンドライバーを腰につけると、バックルを開いて、一枚のカードを取り出すと、それをバックルの中に入れる

「変身」

そして、バックルを勢いよく閉じると

『KAMEN RIDE DERONDO』

灰色のスーツに身体が包まれ、黒色のプレートが頭に突き、身体の大部分が深い青色に染まる。そして、複眼が緑色に染まる。簡単に説明すると、ディケイドのマゼンタ色のところを深い青色にすればいい。これが

「ディロンド！！！貴様を排除する！！」

「……やつてみれば」

そして、ディロンドがライドブッカーに似た、ロンドブッカーを取り出す（ライドブッカーの白いところを青色に塗りつぶしたもの）。そして、ソードモードにすると、一枚のカードを取り出す

### 『ATTACK RIDE SLASH』

「・・・斬・・・」

そして、青い斬撃「ディロンドスラッシュ」を発動すると、2体を一気に切り裂く。そして、近づいてきた3体目のオルフェノクに蹴りを入れると、袈裟に切り裂き、カードを一枚取り出し、バックルを開いてスキャンする

### 『KAMEN RIDE ACE』

そして、ディロンドは、仮面ライダーアクセル・バイクフォームにカメンライドすると、ロンドブッカーを元に戻して、一枚のカードを取り出しへスキャンする

### 『ATTACK RIDE ENGINE BLADE』

スキャンしたのは、アクセルの専用武器のエンジンブレードを呼び出すカード。そしてエンジンブレードをオルフェノクに振りかぶつて切り裂き、さらに重量に力を加えて半分に切り裂いて爆発させる。さらに、ドーパントが走り込み、蹴りを後ろから浴びせる

「つぐ・・・わつわと決めるか」

そして、戦闘中にスキャンしたものとは違うカードを取り出すと、エンジンブレードを地面に突き刺してスキャンする

## 『FINAL ATTACK RIDE ACCEL』

「・・・死ね」

そして、アクセルの必殺技『アクセルグラムジー』を発動させるため、ドーパントを蹴りあげて、自分も蹴りあげたドーパントより高くジャンプすると、右足で蹴りを入れる。

「ぎゃあああ！――！」

ドーパントが爆散した後、ディロンドアクセルはディロンドに戻る。その隙をついてイマジンが迫ってきてラリアットをするが、それをディロンドは軽く避けると、後ろに居たヤミーにロンドブッカー・ガンモードで銃撃をして、一枚のカードをスキヤンする

## 『ATTACK RIDE BLAST』

そして、その場に居た、ヤミー、グロンギ、アンノウンの3体を巻き込んで、『ディロンドブラスト』を決めると、ロンドブッカーをソードモードにして、イマジンに斬りかかる。さらに残りの3体が加勢し、ディロンドは蹴り、殴りの連打を受けて後ろに少し下がる。が、二枚のカードを取り出し、一枚目のカードをスキヤンする

## 『ATTACK RIDE ILLUSION』

このカードの効果でディロンドが三体に分身すると、もう一枚のカードを本物のディロンドがスキヤンする。そのカードも、普通のカードと違い、ディロンドの紋章が書かれている青色のカードだった

「終わり」

そして、三体のディロンドがジャンプして、それぞれ十枚の青色のカードをぐぐりぬけて、三体の怪人に『ディメンションキック』を放つ。そして、三体の怪人は爆発し、ディロンドは一人に戻った。そして、ディロンドは変身を解くと、流の姿に戻った。

「・・・次の世界へ行こう」

そして、彼は銀色のオーロラを出現させると、その中をぐぐりぬけていった

葉音が次の世界へ行っている間に、機動六課隊舎では、とある一人の男が話していた、しかし、その一人は本来はいないはずの、転生者であった

（あのリュウガとかいうの・・・仮面ライダー龍騎に出てたリュウガだよな？何でこの世界に居るんだ？それに管理局を敵とみなしていたし・・・）

と、眞面目に考えているのは、『火流裁』である。彼は転生者の中でも、テンプレーターとか俺TUEEEEEEE!-!-とか考えてい

ない人である。でも、彼の友達で、同じ世界に転生した、銀城兄弟は、俺達ＴＵＥＥＥ！だったので玲人に殺されています。

「それにしても・・・なんなんだ？あのリュウガは」

「君も気になつていたか・・・銀城兄弟も殺されていたしな、その際にオーズがいたらしいし、どこかの管理局の支部襲撃事件では、ブレイドとリュウガが一緒に居たとかあつたしね・・・」

裁の言葉にこたえたのは『鮫崎創』であつた。ちなみに、裁の能力が『王の財宝』<sup>ゲートオブパピロン</sup>で、鮫崎の能力が『無限の剣製』<sup>アンリミテッドブレイドワークス</sup>である。まあ転生者が頼みそうなものですね（ｂｙ靈宮）

「ブレイド・リュウガ・オーズ・・・本来は正義の味方のはずだろ！？リュウガを除くけれど、何で人殺しとかを「まあ・・・それが目的ですからね・・・？転生者さん」誰だ！？！？」

「何者ですか！？」

そこに現れたのは、リュウガもある神山零時と、ナンバーズのクアットロがいた。どうやらクアットロのＩＳ『シルバーカーテン』で潜入していたものと見える

「神山零時ですけど・・・これを見せねばわかると思いますが」

零時が突きだしたのは、リュウガのカードデッキ、そして、腰にはＶバックルが巻かれていた。それみた裁と創が眼を見開いて驚いていた

「そう、零時ちゃんがリュウガなの！」

クアットロが能天氣にそつ言つと、零時はドラグブラッカーを呼び出すと、クアットロと一緒にまたがり、転生者言い放つ

「貴方達みたいな奴らに・・・負けるつもりはありませんから」

宣戦布告。零時はそつに「ドラグブラッカーで硝子をたたき割つて外へと出で行つた。

「よかつたのかしら? リュウガの事言つちやつて?」

「いいんですよ・・・それに、旅人が来たよつですしね」

零時が下を見ると、そこには葉音がたつていた

「リュウガ次の世界か・・・! ? ドラグ・・・ブラ・・・ッカー?」

side out

データ19 旅・人・視・点（前書き）

今回も葉音視点です

## データ19 旅・人・視・点

side 葉音

今回の世界は・・・少し特殊なようですね。まあ僕にはあまり関係ないんですけど。それに、服装が制服っぽいですし・・・胸ポケットには・・・?管理局?それにこの施設内清掃員・・・結局こんな役回りなんですね僕は。とりあえず目的の場所は・・・ここかよ。

「

「・・・でかい・・・」

とりあえず中に入り・・・「からはずす」つまらないで割愛。言つところだけ言わせて貰つと、作業着きて掃除、掃除、掃除・・・・・・・・やんなっちゃいます

「・・・・終わった

僕は普段服に着替えると、外へ行く。しかし、その前に変な音が鳴る。どうやら厳戒態勢のようですね・・・なら、本業に戻りますか・・・

『KAMEN RIDER・・・』

「変身」

『DERONDO-』

そして、仮面ライダー・ディロンドに変身すると、鏡の中から『ワールド』にいけると思い、触れてみたが、行けずに、仕方なく一枚

のカードを取り出す

『KAMEN RIDE GATACK!』

『ATTACK RIDE CLOCKUP』

そして、クロックアップ空間に入ると、外へ出て、変な黒々とした機械の前で、ディロンドに戻ると、ロンドブッカー・ソードモードを構えて見据える

「さてと……やりあいますか」

そして、持っているソードモードのロンドブッカーで敵を何連続で切り裂き、鉄の塊へと変える。そして、今度はガンモードにして、一枚のカードを装填し、さらにもう一枚取り出す

『ATTACK RIDE ILLUSION!! BLAST!! !』

そして、5人に分身すると、ディロンドブラストを5人分一気に発射し、軽く残っていた機械の九割を削り落とす。さらに、分身が解けると、もう一枚の、ライダーカードを取り出す。このカードは、世界を旅していたころに最初の仲間となつたライダー。異形と罵られ続けられながらも、愛する人間のために正義を貫きとおした男・・・草槍リョウ<sup>くわじやま りょう</sup>こと、仮面ライダーギルスに出会ったときに手に入れたカード

『KAMEN RIDE GILRS!!』

そして、仮面ライダーギルスにカメんライドすると、肉弾戦で残り

の機械に、手刀、蹴り、殴りをする。そして、最後の機会が飛びかかるのを、蹴りで吹っ飛ばして終わらせる。

「リョウさん……力を貸してくれてありがとうございます……」

そして、……はい、グリコオオオオ……なんか銃口っぽいもの突き付けられてね？なんか殺気がビンビンに……よし、落ちつけ、僕、COOLに構える……キャラ崩壊していたじゃないか……

「……誰？」

よし、ステルスを……無理いイイイイイイ！……怖いよ！？俺が出会った中でもあの暗黒物質の卵焼き（最終兵器）を作る奴よりも怖い……

「……すみません……」

「お前は……確かに新人の清掃員だったな……どうこう」ときかせて貰う？「ははははは！……そうはいかないんだよね～」お前は……結城に……时空犯罪者の神山玲人！？

「御免なさい……玲人に言われて……」

「あんた、ここは俺達が何とかしてやつから行け」

「……助かった……」

そして、ステルスで逃げると見せかけ・・・幼女を氣絶させる。そしてステルスを解くと、神山玲人と呼ばれた男の人と、結城と呼ばれた女人の人の方に向きなおり、軽く一礼をすると、変身を解く

「・・・葉音流・・・君たちは・・・？」

「ま、積もる話は、二つちに来てから話せ。つうか俺に似てるな?」

よく言われる・・・

side out

## 葉音流の説明

名前：葉音 流

性別：男

年齢：17

性格：無口で、あまり感情を表に出さない。

説明：仮面ライダー＝ディロンドに変身し、戦う青年。今まで11の世界を渡つていて、ライダーカードはそれぞれの世界で手に入れたもの。

容姿：神山玲人に似ていると本編で言つてはいた通り、鏡音レンの髪を緑髪にして、瞳を青色にした感じ。

巡つた世界

「葉音の世界」

葉音の世界。崩壊寸前だったのを葉音だけ脱出し、その際にディロンドの力を手に入れる

ギルスの世界

仮面ライダー＝ギルス／草槍リョウの世界。ここで、ギルス系統の力＝ドFFR・ギルスのカードを手に入れる

ナイトの世界

仮面ライダー＝ナイト／秋原レンヤの世界。ここで、ナイト系統の力＝ドFFR・ナイトのカードを手に入れる。

カイザの世界

仮面ライダー＝カイザ／森山マサトの世界。ここで、カイザ系統の力＝ドFFR・カイザのカードを手似れる

カリスの世界

仮面ライダー＝カリス／相山ハジメの世界／ジョーカーの世界。ここで、カリス系統の力＝ドFFR・カリスのカードを手に入れる

威吹鬼の世界

仮面ライダー＝威吹鬼／泉イオリの世界。ここで、威吹鬼系統の力＝

ドと、FFR・イブキのカードを手に入れた。

### ガタックの世界

仮面ライダー・ガタック／鏡谷アラタの世界。ここで、ガタック系統のカードと、FFR・ガタックのカードを手に入れる。

### ゼロノスの世界

仮面ライダー・ゼロノス／桜山ユウトの世界。ここで、ゼロノス系統のカードとFFR・ゼロノスのカードを手に入れる

### イクサの世界

仮面ライダー・イクサ／與那嶺ケイスケの世界。ここで、イクサ系統のカードとFFR・イクサのカードを手に入れる

### アクセルの世界

仮面ライダー・アクセル／照井リュウの世界。ここで、アクセル系統のカードとFFR・アクセルのカードを手に入れる

### バースの世界

仮面ライダー・バース／伊達シンタロウの世界。ここで、バース系統のカードとFFR・バースのカードを手に入れる

### ネガ・葉音の世界

葉音の世界のネガバージョン。デイケイドのネガの世界と同じような世界ではあるが、ライダーの世界にありながらも、ライダーを信じずに、ライダーを怪物と言つて迫害している世界、ここで、ディロンド専用のケータッチを手に入れる

### ディロンドのスペック

身長：192？

体重：83kg

パンチ力：6t

キック力：11t

ジャンプ力：ひと飛び35m

走力：100mを4・5秒

ディロンドのカードはディケイドとほとんど同じ

以上

データ20 剣・王・覚・醒(前書き)

奏のプレイドが原作と同じになります

## データ20 剣・王・覚・醒

side 玲人

「よし・・・・・プレイバックル完成した」

俺はラウズアブソーバーでは持ち運び不便じゃね?という理由と、流の知識から得たプレイバックルの正確な情報をもとにして、作り上げたのがこれだ

「あの・・・・・できあがりましたか?」

「ああ、出来た。ブレイラウザーに通せるカードをラウズカード全部に変更、さらに強度を上げ、etc・・・まあとりえず良くなつた」

「…面倒くさがり…」

流がそう言つてきたが、流して奏にプレイバックルを渡して研究室から追い出す。そして、流から渡された一枚のカード…・・・流の持つ他のライダーカードと違い、像が描かれていなく『GENOCIDE』と書かれているカードに向き直ると、また解析を始める

「へえ・・・・面白そうじやない」

side out

side 零時

「威井伊井伊井伊！……ヴィヴィオが……六課に転移だと…?  
？」

よし、スカさん締めるぞ。

「違ひつスよ。ウーノ姐がミスつただけツス

・・・・・変更。ウーノをヒOHANASIする必要がありそうだ…  
・・え?後でノーヴェとセインがおびえてる? NANDATOOO  
OOOOOOOOOO—!!—!!—!!

「すんませんでした」

「何でいきなり土下座すんだよ!-?」

そうノーヴェに突っ込まれた。そして・・・・・僕は気付いた!!!  
六課をつぶせ、ヴィヴィオを奪還し、六課に大打撃を与え、転生者  
どもにひと泡吹かせられる

「みなさん・・・・て言つてもウホンティだけだけど・・・・・

六 課 を 襲 撃 す る ゾ!—!—!

「そつツスか・・・・つてエエ!-?無謀すぎツスよ!—!-?」

「いや、ディエチに頼んで・・・・奇襲して、ヒラーワールドから  
ゴンニーチハして、ヴィヴィオを奪還して、幼稚園いれて、卒園まで  
見守るだけだよ!-?」

とつあえず逝くことに決定。字は違うけれど氣にするな

s  
i  
d  
e  
o  
u  
t

## データ20 剣・王・覚・醒（後書き）

とこつわけでヴィヴィオが聖王のゆりかごを起動するために奪還されず、零時の独断により、奪還されることになりましたー

## データ21 六・課・襲・撃

side炎忌

「…………おいでませ六課隊舎…………」

「…………誰に面つている? (なんですか?)」

「いや、すまん」

俺たちは……クリアットロのシルバー・カーテンを使っていますが何か? ま、いいとしてよお……何故俺たちだけ? そして、今は機動六課のほとんどが交換意見陳述会でいない。つまりは……

『GENOCIDE……』

「暴走おく」

『GENOCIDE……』

そして、ジョンサイドに変身すると、鳥型のエクストリームメモリを呼び出すと、奏をその中にデータ化して中に送り込む。そして、ジョンサイド・シャフトを肩に置くと、我先にと六課に襲撃した

side out

side 奏

(どうまでじくんでしょつか? ま、ブレイバッклを持つているので大丈夫でしょう。傍田を見ることが出来ると、なんか零時さんが

筋肉ムキムキの人には「女の敵！！死ね！！！」とか言ってボコボコにしていますし、炎忌さんは周りの壁を「ウエーイー！！！」とオンドウル教祖バリに言つて壊していますし……）

何かとカオスですけれど、まあいいとして……あのカスみたいな転生者がいるんでしょうか？一人もですよ！？玲人さんはそのうちの一人、火流裁とかいうやつと戦っているみたいでしかれど。あ、もう一人がいた。よし殺そう

「よ・・・つと」

「何者だ」

side out

side 第三者

鮫崎が無限の剣製で作り出した干将・莫耶を構えながら、奏に言つ。対する奏はブレイバックルを腰につけ、トランプが腰を回り、ベルトを作成する。そして、ベルトにあるレバーを引くと

『turnup』

という音声が鳴り、ベルトから放たれた、オリハルコンエレメントで形成されるトランプ・・・ラウズカードのスペードスートのA「change beetle」のカードを奏が走つてくぐりぬけると、奏の体が仮面ライダー・ブレイドになる

「I am the bone of my sword . . . . .」

「

そして、鮫崎が無限の剣製の詠唱呪文を唱えながら、奏のブレイラウザーを干将・莫耶で捌く。さらに、それを切り返すと、

「Steel is my body, and fire is my blade . . . . .」

「五月蠅いな . . . . .」

奏がそう言いながらも干将・莫耶をブレイラウザーで捌きながら蹴りを鮫崎に入れる。鮫崎はそれを必要最低限の動きで避ける。その間も詠唱呪文を常に唱えていた。そして . . . . .

「Unlimited blade works

そして、世界が一瞬にて、砂漠のような世界へと変わる。しかし、一つだけ砂漠と違うような点は、件が無限に突き刺さっているという、だけだった。奏はそれを見ながら、ラウズアブソーバーにクイーンのカードを入れ、ジャックのカードをスラッシュ・リーダーにラウズする

『fusion jack』

戦いは、まだ始まつたばかりだ

## データ22 剣王VS魔作者の偽物

NO side

「はあ！…！」

「おらあ！…！」

奏ブレイド（以下Kブレイド）が強化型ブレイラウザーで斬り、それを創が投影したエクスカリバーで防御している。さらに、創は運命を碎く（フェイト）弓矢<sup>アロー</sup>という弓矢で距離をとつてKブレイドを狙撃する。がそれを『トリロバイトメタル』を発動させ、身体を硬質化させ防御。

「なかなかやるんですね…・・・女なのに」

「舐めた真似するんじゃねえええ！…！」

それに激高した奏は一枚のラウズカードをブレイラウザーから取り出す

『kick』

『Thunder』

「熾天覆つ（ロー）七つの円環！…！」

そして、創がロー・アイアスを投影する。避けるのではなく防御するのは何故であろう？

- 1 -

そして、Kブレイドが飛び上がり、ライトニングブラストをロー・アイアスに真っ先に当てる。が、すぐに押し負けて、奏の変身が解けてバラバラと13枚のラウズカードが奏の周りに散らばる。

תְּהִלָּה • • • •

「さてと、公務執行妨害および・・・・まあとにかく逮捕だ。ラウズカードとプレイバックわたせ」

倒れている奏を鮫崎は容赦なく、腹を踏みつけながら言う。そのた  
び、奏の口からはうめき声が漏れている。そして、鮫崎は13枚の  
ラウズカードとブレイバッカルを手に取り、バッカルにスペードの  
Aのカードをいれてから、レバーを引く

turn up

そして、ブレイド（以下「ブレイド」）に変身する。そして鮫崎は固有結界を解くと、一枚のカードを取り出し、そちらへんに投げ捨てる

「さてと・・・正義の味方の通りですね」

いつもの口調に戻る鮫崎はジエノサイドに走っていく。それを奏はようよろと起き上がりながら鮫崎の捨てたカード・・・カテゴリーケのカードと予備のブレイバッカルを取り出し、バッカルにKのカードをいれ、腰に当てる。そしてバッカルからトランプがベルト

を形作り、奏はバツクルにあるレバーを引く

「変身」

『turn』

そして、スペードのカテゴリーKのオリハルコンヒメントをぐりぬけると、奏の姿はブレイド・キングフォームに似ている姿になつた。少し違う点は、本来、奏が変身するキングフォームにあるアンデットの意匠がないところだつた

「本来のキングフォーム、使うの初めてだけど、いつか」

そして、重醒剣キングラウザーを呼び出すと、Sブレイドに向かって走り出し、キングラウザーで切り裂いた

「があー!? 何故ブレイドのキングフォームに・・・」

「いや、これが本来のキングフォーム。カテゴリーKとだけ融合した状態を含みますけれど。何か?」

実はこの形態、無理矢理ブレイバツクルを使って変身している形態でもある。だつて、カテゴリーAのブライムベスターなれば本来はブレイドに変身出来ないんだぜ? そして、Sブレイドからブレイラウザーを奪い取ると、ブレイラウザーから11枚のカードが飛び出し、さらにSブレイドのブレイバツクルからもAのカードが飛び出し、Kブレイドの周りをまわつて、本来のキングフォームへと姿を変える。鮫崎は投影しようとするが、融合係数が低いはずなのにブレイドに変身したため、カテゴリーAのカードに何故か魔力回路を全て奪われてしまったのである

「さてと、死ね」

そして、Kブレイドはキングラウザーにギルドラウズカードをスキヤンする。しかし、何故か全てのカードがキングラウザーに入つて行く

『spade two』

『spade three』

『spade four』

『spade five』

『spade six』

『spade seven』

『spade eight』

『spade nine』

『spade ten』

『spade jack』

『spade queen』

『spade king』

『spade ace』

「はああ・・・・・」

そして、Kブレイドがキングラウザーを一振りすると、スペードスートのアンデット全てが出てくる。そして、それぞれが鮫崎を攻撃していく。そして、最後に

「が・・・・ふあ・・・・・・」

『あなたみたいな愚かな人に、従うわけないでしょ?』

イーグルアンデットがそう言い、鮫崎に蹴りを加えて空中に上げる。さらに、

『本当だ。私は奏嬢だから協力しているだけだ』

カプリコーンアンデットがそう言いながらストレートパンチを鮫山にくらわせ、壁にめり込ませる。

『だつて、奏お姉ちゃん優しいし』

「一カサスアンデットは、オールオーバーという大剣を鮫崎に突き刺し、無造作に、鮫崎の死体を放り投げる。そして、3体のアンデットはラウズカードに戻り、ブレイドのブレイラウザーへと戻る。

「私の・・・・・か・・・・ち・・・」

そう言いながら奏は変身が解除され、その場に倒れた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1725x/>

空の刀が目指すは雷の神 外伝 正義の殺戮者

2011年11月17日18時58分発行